

方剂名	効能	生薬組成	
		主治および証	病機 方意
書籍			
補益剤 補陰剤 15			
ほはいあきょうとう 補肺阿膠湯 (補肺散)	養陰補肺・清熱寧嗽	阿膠 45g・牛蒡子 7.5g・炙甘草 7.5g・馬兜鈴 15g・杏仁 6g・糯米 30g 粉末にし1日3回3~6gずつを水煎し、食後に温服する。約1/3量を煎剤にし、別に湯に溶かした阿膠を加えて服用してもよい。	
小児薬証直訣	<p><主治> 肺陰虚火盛 むせるような咳嗽、呼吸困難、咽喉の乾燥感、少痰あるいは痰に血が混じる、舌質が紅絳、少苔、脈が浮細数などを呈す。</p> <p><病機> 肺陰虚で内熱が盛んな状態である。 肺虚有熱で肺気が肅降できず上逆するために、咳嗽、呼吸困難、呼吸促進が生じる。津液が不足しているの で、むせるような咳、咽喉の乾燥、少苔がみられる。内熱が肺絡を灼傷すると痰に血が混じる。舌質が紅絳、 少苔、脈が浮細数は、陰虚内熱を示す。</p> <p><方意> 肺陰虚を滋補する本治と、肺熱咳嗽に対する清熱止嗽の標治を同時に行う。 主薬の阿膠を大量に用いて滋陰補肺、養血、止血する。同時に滋補脾陰の糯米・炙甘草を加えて補脾益肺し、 阿膠を補助する。清熱止咳、化痰の馬兜鈴、宣肺下気、平喘の杏仁、宣肺清熱、祛痰止咳の牛蒡子は、内熱を 清し止咳、平喘、祛痰に働く。</p> <p><参考> 本方（補肺阿膠湯）は、小児の肺陰虚燥熱の咳喘に適するが、成人に用いてもよい。</p>		